

JWTC Japan Women in Travel Club NEWSLETTER

JWTC ニュースレター
vol.34-1
New year 2014



広げよう！ 人の輪 旅の輪

JATA X JWTC 第2回勉強会

日本旅行業協会 田川博己副会長 講演採録

2013年11月11日(月) 参加者92名(JATA 37名、JWTC 54名)

観光ジャーナリスト 千葉千枝子

新しい旅行業と女性の役割

第2回となるJATA JWTC合同勉強会を、去る2013年11月、霞が関のJATA会議室で開催しました。講師は、JATA副会長で株式会社ジェイティービー代表取締役社長の田川博己氏。WTTTC世界ツーリズム協議会や日本経済団体連合会などで幅広く活躍の田川氏の肉声に触れようと、満場の賑わいでした。

JATA 田川博己副会長講演採録 価値創造で新たな旅行業の時代へ 求められるダイバーシティ

五輪2020の東京招致が成功した要因の一つに、女性の配置の妙がありました。パラリンピック選手の佐藤真海さん、そして滝川クリステルさんと、女性陣による心揺さぶられるプレゼンテーションの賜物で招致成功を導いたように感じます。

一方でインターネットが普及するなか、リアルとネットを融合して、いかに消費者へ旅の価値を提供していくか、新たな価値の創造が求められています。

2014年は海外渡航自由化50年の節目の年です。半世紀前は、どのような価値観を持っていたかを振り返り、過去と現在、そして未来を一つのセットにして、新たな需要の創出をすべきです。

ものづくりの会社は、リーマンショックなどの荒波を乗り越えて、切磋琢磨して進化を遂げました。しかしサービス財の分野では、便利さの追求に終始した感がします。成長と発



講演後の質疑応答では、活発な意見や質問が交わされた



JATA会議室は満場の賑わいに



経済界にも通じたJATA副会長でJTB社長の田川博己氏。観光産業発展のために日夜注力する

仕事をしてきました。しかし、その体質のままだと、これからの成長は望めません。経営課題のキーワードに休暇制度があります。ドイツでは、自動取得の仕組みが確立されていますが、日本も消化率を100%にすべきです。もう一つの発展のカギは、人材育成にあります。ダイバーシティの推進を、いかにトップ(経営者)がコミットメントするか、横軸を大切にすることに繋がります。例えば広報セクションは、女性が担当した方がよい成果を生みます。人事の多様性が求められています。

働きやすさではなく「働きたい」をどう求めるか。女性登用にKPI(重要業績評価指標)を設けることが重要です。KPI導入は、業界ではJTBが初です。女性に明確な目標・役割を与えつつも、女性の皆さんにも意識を変えて欲しいのです。女性の苦手分野でもある、しっかりと謝れるかも大切です、企業におけるリスクマネジメントにもなります。

最終的にどのポストを目指すか、社員に確認してはいますが、自らが社長を目指すビジョンを持ち、未来はどうあるべきか、最終目標から逆算してビジョンを語って欲しい。JTBではメンタリングプログラムの一環に、女性と役員のコミュニケーションをはかる場をもち、表彰制度「ダイバーシティアワード」も設けています。

とはいえ、ダイバーシティだけで業績が上がるわけではありません。個の成績を上げるための土台づくりをしている会社こそ、伸びるだろうと考えます。男女の別を役割区分で考えているうちは、女性の真の登用はできません。企業が発展するためには、自由に発言できる環境づくりが大切です、それが需要創出を生むと考えます。

ツーリズム産業の皆さんには、ぜひ主体性を持つていただき、この産業の成否を握る中核に女性がいるということを、あらためて申し上げ、ダイバーシティにあるように、女性によって新しい旅行業を創っていくと期待しています。

JATA 田川博己副会長講演採録 ダイバーシティの推進と女性の活躍 休暇制度と人材育成がカギに

企業活性化にダイバーシティは欠かせません。女性の活躍を考えたとき、単に経営数値ではあるのではなく、働き方をどう求めるか、横軸で仕事を整えることも経営者にとつてのテーマです。旅行業はこれまで、個人の能力だけで



勉強会のあとはカスマイニング「鞍手茶屋」を貸切で懇親会を開催。和やかなムードのなか親睦を深めた

photo ©Chieko Chiba

青森の食を知るセミナー

2013年8月6日(日)
参加者26名(午前の部13名 午後の部13名)



NHKの料理番組「きょうの料理」でお馴染みの高城順子先生が主宰するキッチンスタジオ「スタジオタカギ」(東京・世田谷)を会場に、JWTC勉強会・青森の食を知る(料理教室)セミナーを、午前の部、午後の部と2班にわけて開催しました。

この日の東京は、朝から照りつけるような暑さ。完熟レギニョフの青森県産アップルジュースをウルカムドリンクに、連日の猛暑を吹き飛ばす。夏バテ予防のメニューを高城先生に考案いただき、実演してもらいました。青森の山海の幸をふんだんにつかった献立の数々が、手早い調理と説明のなか披露されましたがこれら材料や加工品等は、青森県観光国際戦略局とAファクトリー(JR東日本青森商業開発)の協力協賛のもと、青森県産品でそろえました。

高城先生は過去8回、食材と産地視察のために青森を訪問されたことですが、五能線沿線や八戸、十三湖周辺など豊かな自然に恵まれる青森各地を訪ね歩いたなかで、「つくづく、よい食材が多い」と実感されたそう。青森県ブランドの産品は、枚挙にいとまがありません。リンゴやニンニク、ゴボウ、長芋に大根やカブ、さらにはこの日テーブルに並ぶ予定の海峽サーモンや帆立、三沢の山崎ポーク等々それぞれクオリティの高さを、実演に先立ち座学の講義形式で一つひとつ丁寧に説明され、私たちは理解を深めました。

実演の最中にも野辺地の小カブを生きたまま、自然の甘さで試食を勧める高城先生。曰く料理とは、「素材を活かすか、複合的に二つの味を創るかのどちらか」と語り、「素材のままでは、美味しいソースをつかって楽しむのもよいのでは」と、保存性の高い手作り梅味噌との相性の良さなどをコツを教えてもらいました。

調理実演のあとは、お楽しみ会の試食会です。シードルで乾杯のあとは、六花酒造の純米大吟醸「華想い」や「じよっぱり」なども振る舞われ、青森の味を美味しくいただきました。メニューのなかでも特に人気の高かった「ゴボウの揚げソテー」レシピを、裏面に掲載します。(千葉千枝子)

高城順子先生考案 青森の食を知るメニュー一覧

- ・長芋と豚肉の華風和え
- ・ヨーグルトそうめん帆立入り
- ・ゴボウの揚げソテー
- ・長芋のオードブル
- ・大西ハーフ園のサラダ





JWTC 青森県視察研修旅行

2013年10月26日(土)〜27日(日) 1泊2日

朝8時台のJR東北新幹線はやぶさ号で一路、新青森駅をめぐり、JWTCの参加メンバー8人を笑顔で出迎えてくれたのは、青森県観光国際戦略局の工藤里実さんと、バリアフリー旅行や着地型旅行商品専門の弘前の旅行会社「たびすけ」代表 西谷雷佐さんです。津軽路は紅葉真っ盛りでした。

今回の旅は、カルチャーツーリズムがテーマ。食をはじめ青森津軽の楽しみ方と魅力をプロの目線で学びとり、販売につなげていくために組まれた特別コースです。1泊2日と駆け足でしたが、充実した視察研修の旅となりました。今後の津軽路探検つくりの参考に、時系列で振り返ります。

1日目

まずは、弘前公園近くの幻の津軽そば「野の庵」で昼食です。なぜ幻かといえは、つなぎに大豆を用いる手の込んだ歴史的製法だからです。そのあと「ブナコ漆器製造」へ。工房見学後にブナコ製作に挑戦しました。ちなみにブナコとは、青森ブナ材が原料の木製品のことです。BUNACOは世界のブランドです。細材をテープのように巻いたものを、湯呑で焼いて器の形に造りあげる体験に、全員が無我夢中で取り組

みました。

夕暮れ時になり、待望の弘前まち歩きがスタート。気がつくくと西谷さんに替わり、ハンナグ帽にバンダナ姿の雷々(らいらい)と名乗る男性が現れました。ヘッドセットのポータブル拡声器を装着。これが、他県から視察も絶えない着地型旅行商品・路地裏探偵団です。西谷さん扮する雷々さんに連れられて、まち歩きはスタート。弘前中央食品市場から始まり、市内6店のアップルパイを食べ比べるなどして、煉瓦倉庫前の奈良美智さんの巨大アートに触れ、土淵川岸から弘南鉄道を眺める。あたりも真暗に、スナックに灯りがともる。迷路のような明治屋ゴールデン街



絶品「野の庵」幻の津軽そば



湯呑片手にブナコの製作体験



路地裏探偵団の弘前まち歩き

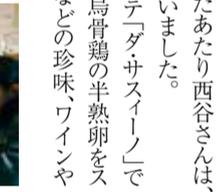


津軽三味線を「山唄」で

を歩いて、鍛冶町界隈に至ったあたり西谷さんは、いつのまにかスーツ姿に戻っていました。夕食は、有名なレストラン「ダ・サスイ」で本格イタリアンを。鱈ヶ沢産烏骨鶏の半熟卵をスタートに、鹿や鴨ウサギなどの珍味、ワインやドルチェも自家製で、白神津軽の恵みと、パワーをいただきました。食後は、宿泊先ホテル近くの民謡ライブ館「山唄」で津軽三味線の音色に酔いしれ、夜は更けました。

2日目

出荷に欠かせない木製りんご箱製造元「青森資材」へ。職人によつては一日100箱も造るのだとか。名人の木箱づくりを見学のうち、デザイン家具と生活雑貨の店「板柳のmonno H.A.U.S」で、ブチ木箱づくりを体験しました。釘がまつすぐ入らずに、トンカチ片手に皆、真剣な形相。なぜブチかと言えば、りんご3個が入る



真剣な表情でりんご木箱づくり体験



奈良美智作「あおもり犬」



ねぶた師・竹浪氏の製作現場を見学



ねぶた師・竹浪氏の製作現場を見学

名古屋支部だより

名古屋支部 第2回勉強会

「旅と健康ハイキング」

病気を健康をテーマにしたテレビ番組をよく観ます。この食べ物が身体によいといわれると、翌日のスーパーではその食べ物が売り切れる騒ぎになったりもします。そんな健康ブームもあり、手軽に始められるハイキングは人気の高いツアーの一つです。ハイキング人口は3300万人を超え、登山を楽しむ人を含めると5000万人に近しいといわれます。

名古屋支部では、ハイキングの魅力と楽しみ方を、名鉄観光サービス国内旅行部副部長・三神敬氏を講師に招き、勉強会を開催しました。三神氏は下見を含め年間約1000日のトレッキング、ハイキングに、添乗員として活躍されています。

ハイキングツアーの参加者は、断然60歳以上の方が中心です。リタイア、または子育てが終わり、健康が気になる年齢でもあります。健康のためだけでなく家の周囲を散歩する



人もいますがそれだけでは物足りないものです。その点ハイキングでは、知らない土地を見聞きし、人との出会い、その土地ならではの食べ物や酒を味わうことができ、歴史を知って自然を楽しむこともできます。一人でハイキングを楽しむ人もいますが、ツアーではバスに乗り込んだ時からおしゃべりが始まり、ハイキング中も食事も続き、新しい輪が広がります。ハイキング後の温泉に、一杯のビールは最高です。

ツアー参加では、アドバイスをしてくれる添乗員、登山ガイドがいてくれることが一番の利点です。衛星電話、GPSを持ち、常にスマートフォンから気象情報を得ます。休憩をとるタイミングや体調不良ヶ力による緊急時の対応を考えるならば、ツアーは安心です。自分の体力に合わせて、初級コースから上級コースへとトライすることもできるでしょう。

今回の勉強会では、トレッキングシューズの選び方、服装のアドバイスや歩く距離に応じて必要な補給

水分量の計算方法と、実践に沿ったことを学びました。また、登山においては、団体は要予約ですが、基本、山小屋の予約は必要なく、雑魚寝は当たり前。同じ目的を持った、見知らぬ者同士の交流も楽しみの一つ、知らされました。

名古屋支部 草次昌子



JWTC Nagoya

Relay Essay

リレーエッセイ

株式会社シイ、エイ、エヌ、(営業呼称 CANツアー) 木村 晃子 (会員番号434)

私が旅行会社を創業したのは29歳のとき。自由旅行を主として業務展開していた会社に2年間勤務の後、結婚を期に先輩と共同経営者として起業しました。そのころは、女性が社会で仕事を続けることが一般的ではなく、自分の職場は自分で用意、プラス今と言うワークライフバランスを考えての起業でしたが、お客様に全面的に旅行手配を任されるのが楽しくて、楽しくて、ワークホリック的だったと思います。営業マン、あるいは旅職人としては、仕事は満足でしたが、経営的には自分の前を行く人がいないというのは、自由ではありますが、常に渴望感がありました。先輩に学べない不足は、旺盛な旅行欲をもったお客様からマーケットの選び方、仕事の運び方、経営の在り方等を学ばせて頂きました。

CANツアーとして創業してから早くも16年。ターゲットは自由旅行を愛する人々で、一緒に働くスタッフは「人と旅が好き」と集まった社員。お客様への思いと、IT技術を融合させながら業務を遂行していますが、旅行手配環境は大きく変わり、右肩上がりだった業績も足踏みすることが増えました。

「このままでいいのだろうか」というほんやりとした不安を払拭すべく、昨年あたりから積極的に勉強会に参加したり、機会があれば実際に旅に出たりし始めました。旅行会社不要論さえ噴出する今の時代に、私たちは旅行業者として観光産業の中で何が担えるんだろうと思いつながらの日々。外に意識を向けてみる大切



なことがクローズアップされてきました。

同業者のみならず他業種の方々のとのつながり、データ分析、一般的な知識や常識を学ぶ、Webを学ぶことなど。しかし一番大切だと思ったのは決意。信じること、決めることだと感じています。

私は自他共に認めるアナログ派です。そこで経験が一番大切と、毎年、海外社員研修を実施しています。20余名の社員旅行は大変ではありますが、大きな楽しみでもあります。今年はマレーシアへ行きました。短い旅程中で、FITが必要であろうことを実際に見たり、体験したり、スタッフは忙しい日程のなかで沢山の事を学んでくれたと信じています。

「自分の信じる道を歩むしかない」と心に決め、さあ、これから元気なうらさい社長として突っ走ります。

今回は、田邊真利子さんにバトンタッチです。

大ききだから。可愛らしくラッピングしてくれて、大切な人へ送るところまでを、近く商品化できないかと試行体験です。

「一行は、道の駅つるた「あるじや」に立ち寄ったあと、五所川原の「立佞武多の館」へ。館長の案内で館内をめぐり、昼食をすませたあとは津軽金山焼へと向かいました。金山焼の登り窯を見学、買い物してのち青森市へ移動して、白亜の「青森県立美術館」で約1時間、自由見学です。シャガールやあおもり犬を美術鑑賞しました。アスラム近くにある「竹浪比呂央ねぶた研究所」では、青森ねぶたの製作現場を見学。そして青森駅周辺のベイエリアへ移動して、「FACTORY」で最後のお買い物。勢いよく財布を開いて、18時台新青森発の新幹線に飛び乗り、帰京の途につきました。

photo ©Chieko Chiba

JWTCホームページを活用しましょう!

JWTC日本旅行業女性の会 ホームページアドレス

<http://jp-jwtc.org/>

JWTCのホームページには、当会の紹介や活動内容、ニュースレターのバックナンバー、会員向けのお得な情報などが掲載されており、会の情報を一挙に知ることができます。ご友人などに入会を勧めるさいにも役に立つ情報が満載です。積極的に活用して、JWTCの存在を広めましょう!



「イスラムの基礎知識」

2013年10月2日(水)
参加者21名(会員17名、ビジター4名)



渋谷・大山町にある「東京ジャーミール文化センター」空港関係者などの視察依頼が近ごろ急増しているという

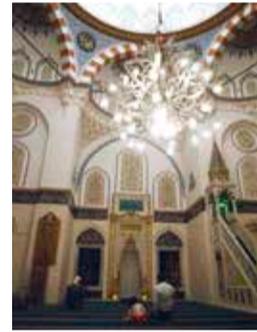
日本ではなかなか触れる機会が少ないイスラム教の基礎を学ぶ勉強会は、21人の参加者を得て10月2日、日本最大のモスク「東京ジャーミール」にて広報担当である下山茂氏が講師に開催されました。

高くそびえるミナレットにドーム屋根を持ち、周囲に異国情緒を醸すモスクは、トルコから100人もの建築家や職人が来日して建てたというもので、印象的なモザイク模様があちらこちらにちりばめられた、荘厳で、素晴らしい建物でした。

教義に礼を尽くして頭に被るべくスカーフを手にした参加者が集合したのは、ちょうど夜の礼拝(イシャール)の始まる時間で、呼びかけであるアザーンが厳かに響くなか、礼拝所の後方からその一部始終を見学させていただきました。導師が朗詠するコーランに導かれて、祈りをささげる信者の方々の姿には、心打たれたひと多かったと思います。

説明をいただいた下山氏は、もちろん敬虔な信者でもあります。とかく日本ではありがちな、イスラムに対する偏見や誤解を払拭し、正しい理解を持つてほしいという、気持ちが溢れたわかりやすい解説で、予定の時間をかなりオーバーするほどでした。

曰く、イスラム教は神のもとの平等を説き、寛容で慈悲深い教えである。教えを守り、喜捨の精神にあふれ、持てる者は持たない者に惜しみなく与える。そうでなければ、世界で16億もの民が信仰する宗教には成り得ないとのこと。信者の数は、インドネシア2億人、



パキスタン、インド、バングラデッシュにそれぞれ1億人以上、聖地メッカへの巡礼は制限があつて、インドネシアでは12年待ちであるといった数字にもあらためて驚かされました。また、信仰は心だけでなく、声に出して告白し、形にして表す、といった考え方に触れて、イスラムの現実的宗教像がおぼろげながら見えた気がしました。

勉強会のあとは、近くのレストランでインドネシア料理。初めて知ったイスラムの世界の話で、懇親を深めた一夜でした。

(長野久絵 東京都公園協会)

東京水辺ライン「浅草・お台場クルーズ」と 浅草・助六の宿「貞千代」江戸情緒溢れる食事会

2013年8月24日(土) 参加者18名(会員13名、ビジター5名)

川面から首都・東京の眺めを楽しみ、お江戸情緒あふれる宿で、宴を盛り上げる芸を鑑賞しながらの贅沢な昼食会。時間に追われる日常に、しばし自分へのご褒美をいただいた瞬間でもありました。

川風は心地よいものです。今回、乗船した「東京水辺ライン」は、公益財団法人東京都公園協会が運営する水上バスで、戦後の復興計画における水辺環境事業の発展振興を目的に運航されているもの。いわば都民の足で、移動手段の一つですが、近ごろでは地域防災計画に役立っているこ



サンパウロへやってきて数ヶ月。最初は見えなかった旅行業界の実情が、少しずつ明らかになってきました。

テレビや新聞広告にみるツアー旅行は、ほとんどの旅行会社が国内・海外とも、なぜか同じ出発日と同じ日程。祝祭日からみれば特に多い設定で、なぜ同じパターンなのか、他社との差別化で勝負しないのか、不思議でなりません。でも、至極明解でした。大手旅行会社が飛行機をチャーターして格安ツアーを造り、それを卸す、または航空券だけを卸しているから、どの会社も同じ日程になっていたのです。ツアー本数も、日本の比になく膨大です。しかも暦上、休暇がとりやすいパターン日程とは限りません。ブラジルでは利用客が、チャータースケジュールに合わせて休暇をとるのが当たり前。すべてのツアーに手数料ゼロの分割払いが設定されており、5~10回のクレジットカード払いでないと商品が売れない、という事実も衝撃でした。

日本でも近ごろ、出発日が近づくほど料金が上がるホットディール商品が多くなりましたが、ブラジルは価格変動が極端で、混み具合によって価格は自動制御され、今あった料金が、一瞬のうちに消えてなくなります。確保した座席も、予約時の価格が発券時には、勝手に値上がる——発券期限が、例えば翌日であっても価格は保証されず、まさに時価なのです。それゆえチャーター便を安く買い取ることでツアー料金は安く、しかし日程は固定という商品が、数多く市場に出回っているのだと知らされました。

旅行業に長年、たずさわってきた私ですら戸惑ったのですから、当地にご赴任されたばかりの日本人が、この状況を理解できるはずはありません。それでまず、日本との違いを説明することから始めています。

発券期限も日本と大きく異なります。国内線の多くは1日以内、早いものだと6時間以内に発券しなければ自動取消され、さらに同便、同料金で再予約できる保証はありません。国際線も同様で、長くても1週間以内に発券しなければキャンセルされます。事情通になった駐在員の方は、半年以上先の休暇計画を綿密に立て、たとえ即発券であっても安いチケットを購入するようになります。

ここまで話す航空会社本位の市場とお感じでしょう。世界的に廃止の方向にあるコミッション制が、ブラジルにはまだ残っています。公示ディスプレイにもコミッションが支払われます。廃止になる日はそう遠くないように思うのですが、その時どれだけの旅行会社がこの国で生き残れるのか疑問です。とはいえ、したたかな商売で上手に乗り切るのがブラジル流。心配ご無用、という声が聞こえてきそうです。次号もお楽しみに。

下船後、私たちは浅草寺の境内を抜けて、昼食会場となる浅草・助六の宿「貞千代」へと向かいました。以前に貞千代社長との知誼を得ていた私は、今回の訪問をとっても楽しみにしていました。かつて、丁寧な礼状とともに名前入り特製江戸木札(キーホルダー)を送っていたとき、感激したところでした。どこまでも気遣いのあるお方で、ぜひ再会を願っていたところに、今回の特別イベントのお誘いがあったのです。

江戸情緒溢れるお座敷で、めったに観賞することができない太鼓持ちの芸も、私たち女性にとっては新鮮でした。

2020年東京五輪の開催に向けて、大勢の外国人が集う観光都市として東京が、さらなる発展をしていくなかで、魅力あるコースを再認識させてくれた今回の企画は、旅行業界で働く私



夏の屋下がり、浅草・助六の宿「貞千代」で江戸前の遊びと食を楽しんだ

photo ©Chieko Chiba



船内や船上で隅田川を満喫 東京スカイツリーもくっきり望めた

新入会員紹介

会員番号442
三觜 英子 東京海上日動火災保険株式会社

JWTCの皆さま、こんにちは。7月に着任し、JWTC会員の皆さまをはじめ、旅行にたずさわる多くの方々とお会いして、「旅」が持つ様々な力や可能性にあらためて気づかされました。これからは保険を通じてお客様に安心・安全で楽しい旅をお届けできるよう、皆さまと一緒に、取り組んで参りたいと思っております。不慣れな点も多々ございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます!



会員番号440
大江 智子 エース損害保険株式会社

このたびはJWTCへの入会の機会をいただき、ありがとうございます。ご推薦いただきました西鳥羽様、戸井川様、そして暖かく迎えて下さいました先輩諸氏に、心より御礼申し上げます。これまで旅行保険の営業を通して、旅行代理店の皆様より、旅行についてご教示いただきましたが、今後、JWTCで旅行の様々な業にたずさわってられる諸先輩方に、お教をえをうることができるとを何より楽しみにしております。会員の皆様と楽しく交流しながら、今後のJWTC活動に、微力ではありますがお役に立てるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



会員番号441
土井 博美 株式会社エアサーブ

業界新参者の私に、入会の承認いただきましてありがとうございます。トラベル懇話会に社長の代理で数回出席しており、戸井川会長にお声がけいただきました。熱心な皆様の一員に加えていただき、身の引き締まる思いでございます。弊社は、国内主要7空港に支店を置き、幹線・送迎業務と通信機器レンタル業務を行っております。非常にニッチな業務ではございますが、空港現場は日々動いて、お客様対応を行っております。楽しいエピソードなど皆様にお知らせできればと存じます。今は通信機器(トラベルイヤホン)事業に注力して営業を行っており、幅広い使い方をご提供していきたいと思っております。仕事も性格も、ジツとしていない性質です。お気軽にお声がけいただけましたら幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



運営委員会からのお知らせ

JWTC第34回総会

第34回総会を下記の通り開催します。
■日時:2014年3月1日(日)14時~(予定)
■場所:アーリーズテラス(東京・北青山)
※総会終了後に懇親会を予定しています。

JATAxJWTC第3回勉強会

JATA日本旅行業協会・吉川勝久副会長(KNT-CTホールディングス会長)を講師にお招きして第3回合同勉強会を開催します。
■日時:2014年3月6日(木)19時~(予定)
■場所:JATA日本旅行業協会 4階研修室(東京・霞が関)
※勉強会終了後に懇親会を予定しています。

私のふるさと自慢

第1回 北海道北見市
長野 久絵 東京都公園協会 水辺事業部水辺ライン課

前号から装い新たになったニュースレター、新連載は、私の故郷・北海道北見市からスタートです。

学生時代のこと。上野発21時00分の夜行列車に乗ると、特急から青函連絡船、さらにまた特急へと乗り継いで、翌日の21時にようやく辿り着く、それが帰省でした。今では飛行機で、最寄りの女満別空港まで、たったの2時間弱。ただし片道普通運賃は、那覇線よりも若干高い、4万数千円です。一故郷が北海道なんて、いいわねえなんて、暢気に言っていたら、高額の運賃。子供のバンスと頭では理解していても、旅行代金わずか3万円前後で海外旅行が可能なの時代、帰省するたびに恨めしさを感じます。

北見市は、面積では国内4位(1位は高山市)の広さを誇り、東西約110キロに及びます。これは、東京駅から箱根までに匹敵します。もとは内陸の盆地でしたが、町村合併によりオホーツク海に面した市になりました。人口は網走市の約3倍、12万人を有します。

戦前まで薄荷(ハッカ)の一大生産地で、世界の生産量の7割を誇っていました。ところが薄荷成分が化学合成されるようになって以降、天然薄荷は姿を消してしまい、昔日の面影を残す記念館が、市内にポツンとあるだけです。とはいえ今や北見は、道東の中心市に発展してオホーツク産品の一大集散地になりました。

北見には自然の恵みがたくさんあります。グリーンデンウィークを過ぎたあたりから、桜とツツジがいつべんに咲き、道東の春は始まります。その



水辺事業部水辺ライン課

桜葉は、北国特有の寒暖の差で、秋には紅葉して二度目の楽しみを与えてくれます。夏の夕暮れ時、月見草の群生林へ行けば、花が「ポツ」と息をたてて開花します。音が聞こえるのです。冬は氷点下20度の寒空ながらも満天の星。キタキツネの足跡が点々と続く雪原の上から仰ぐ空は、また格別です。阿寒国立公園や知床国立公園が北見から日帰り圏内にあり、自然を満喫できます。

食では近年、B-1グランプリご当地グルメの祭典に、オホーツク塩焼きそばが健闘しています。幼いころより慣れ親しんだ味ではないため、正直、ピンときません。北見の食といえは、流水が去ったところから獲れる毛ガニ、7月にしかお目にかかれない北海シマエビ、サロマ湖の牡蠣(カキ)、とうもろこし、果肉の赤い北見メロン、それに何とんでも私の大好物、全国第二号で免許を取得して製造を始めた地ビール「オホーツクビール」です。東京スカイツリーのお膝元ソラマチタワー



高城順子先生の青森おすすめレシピ

ゴボウの揚げソテー

- 【材料】
ゴボウ 150g
人参 1本
あわせ調味料
味噌 大さじ 11/2
砂糖 大さじ 11/2
酒 大さじ 3/4
ニンニクすりおろし 少々
揚げ油 適宜
白ゴマ 適宜



- 【作り方】
①人参、ゴボウは皮をこそげ、長く細めの乱切りにする
②あわせ調味料を混ぜる
③揚げ油を熱し、人参、ゴボウを各々カラッと揚げる(注:揚げる前に水分を取る。揚げ時間は約2分)
④フライパンに揚げた人参、ゴボウを入れ、②の調味料を加えて、中火で、からめながら炒める
⑤器に盛り、白ゴマをふる

青森県はゴボウの出荷量日本一。低カロリーで食物繊維やポリフェノールが豊富なヘルシー野菜です。カロチンが豊富な人参は、油と一緒に摂ると吸収がよく抗酸化作用があります

JWTC会員からのお得情報

ホテル グランパシフィック LE DAIBA
水曜日限定 ハッピーレディースデー ひとり 1800円

お台場にある「ホテル グランパシフィック LE DAIBA」では、女性を対象に2Fメインバー「ルイロベス」において、毎週水曜日に「ハッピーレディースデー Happy Lady's Day」を提供しています。ぜひ、お誘いあわせのうえお越しください。



■内容: 1人1800円(税・サ込み)ドリンク2杯(365種類のカクテル、スパークリングワイン、生ビール、ノンアルコール、ソフトドリンク)と1プレートのお料理。それ以外の追加オーダーは、メニュー内のドリンクと食事がすべて半額。
■毎週水曜日17:30~21:00までの来店が条件です。予約・問合せは03-5500-6603(直通)まで
(情報提供: 根本恵 ホテル グランパシフィック LE DAIBA)

JWTCの現場から 第2回 運営管理部の活動紹介

運営管理部は、JWTCの運営全般と会員情報を管理する役割を担っています。具体的には、年次総会の準備と運営、予算・財務管理と会計業務、議事録及び会の記録保管、会員の入退会やデータの管理、会員ハンドブックの作成など、多岐にわたります。

会社でいうところの管理部門なので対外的な華やかさはありませんが、管理や保管が主な業務であることから、発足以来、もっとも重点を置いているのが「正確であること」です。これはなかなか難しい目標ですが、部員や運営委員各位の協力を得ながら進めています。

そんな当部が表舞台で活躍できる唯一の機会は、年次総会です。JWTC最高議決機関であり、大変重要な催しなので、一番緊張する場面でもあります。まずは、約4か月を費やして報告資料作成などの準備を行います。そして、当日は滞りなく議事が進むよう、部員全員が役割分担して、議長や司会者へのレクチャーに至るまで、きめ細かな配慮を心がけています。

部員は旅行業、ホテル、ランドオペレーター、関連企業など、さまざまな分野で活躍しており、部会と称した食事会では、互いの情報を交換しながら楽しく活動をしています。

これからも会員のために、縁の下の力持ちの存在として、活動をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



JWTC NEWSLETTER



JWTC ニュースレター 早春号 vol.34-1

発行日 2014年1月1日
発行人 戸井川裕美子
編集長 千葉千枝子
発行所 日本旅行業女性の会
編集制作 日本旅行業女性の会 広報戦略部
印刷デザイン 株式会社 誠晃印刷

編集一後一記

身体が不調で元気がなかったとき、友人が二冊の本を貸してくれました。著者は日本漢方研究所の創設者で、2003年全国高額納税者番付第1位。健康からビジネスで成功する心得まで多岐にわたる内容でした。それらを実行に移したところ体調もよくなりました。まず、日にやる努力のうち15%が食事。ご飯を玄米に変えて野菜を多く食べます。次に、ぬるめのお風呂。体を温め、マッサージなどが15%。残り70%は考え方は、からだは、からだを治せるようになって、「からだに感謝します」と言うこと、からだも喜んで治してくれます。そして、それを声に出して言うこと。これからも、出来る限りこの感謝の言葉を周りの人と自分のからだに言いつて、2014年も元気に過ごしたいと思えます。(M.N)